



社会福祉法人 薄光会 広報紙



『虹の向こうに』

第36号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成27年3月20日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3

Tel 0439-67-3711

豊岡光生園

: 〒299-1742 千葉県富津市豊岡3535-1

0439-68-1711

相談支援センター天羽

0439-68-1833

三芳光陽園

: 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園

: 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

ひなたホームズ

湊ひかり学園

: 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551



広報紙の「コラムを依頼されてから、ほぼひと月も呻吟している。「このたび」とか、「平成二十七年に向けて」とか書き出しても、筆が止まったままだ。

「つまりらない」そんな思いが邪魔をしている。

「です・ます調」で慇懃にいくべきか、

「だ調」で軽妙洒脱にいくべきか、

ハムレットよろしく優柔不断を地でいっている。

優柔不断ではだめだ、という声が響く。

いや、ここが思案のしどころだと別の声が聞こえてくる。

《自分にいったい何ができようか》

* * *



いま、社会福祉法人は岐路に立っている。社会福祉法人のあり方や、改革に向けた方向性云々、ありていと言えば「金儲けに走るな、自分のことばかりじゃなく、地域貢献しろ」というところらしい。

「ははあ、ごもっとも」と、黄門様の印籠に取るものも取りあえず平伏すべきや。

「否ー」

と、生来の臍曲りが顔を出す。

「てやんでい、構造改革以来、福祉を商品化してきたのはどのくらいでー」と、

半可通の八兵衛に与ってしまう自分がいる。



生きるすべも覚束なかった時代からの福祉事業を担ってきた人々は、必然に、地域をつくろう、社会を変えようという精神を持ち合わせていたはずだ。



いま、目に見えないところで、福祉の、支援の、介護の、「バック詰め」化が進んでいる。サービスという名のバック詰めを取り引き。社会福祉法人が自己本位と断じるのならば、それは、国の政策の当然の帰結と言わねばならない。

「サービス！」

ああ、なんと貧相な、日本の文化意識を無視した直訳語であることか。福祉現場の実相、地域コミュニティの実態、そして目の前の生存権を、この言葉は、いともたやすく霞ませることか。

《自分は強い意志を持たねばならない》

* * *



ここまで思案をめぐらしたとき、遠い記憶が舞い降りた。

「二ヶ月間ただ働きしますから試してください」こう啖呵を切って自分は拾われたのだった。すいぶんかっこ良く聞こえるが、実際は仕事を失うまじいと、卑屈なほど汲々としていた。人間は弱い。いや、自分は弱いというべきか。

職員のひとりに数えられたとき、今度は



一端の専門家面をした。一人前に評価されたくて、無謀にも調子づいた。そんな自分は正体の分からぬ扱いにくい職員であったに違いない。

むろん、利用者にとっては、「自分」というものをすっかり封印してしまった職員など、気持ちの通じる相手であるはずがなかったであろう。自分は何者であったのか。

《自分は裸にならねばならない》

* * *



「私たちのことを私たち抜きで決めないで」国連の障害者権利条約を契機とした、もうひとつの世の潮流である。この流れは認知症のお年寄りの世界にまで広がっている。

事は明瞭である。



当事者の声を聴き、当事者と悩み、共に泣き笑いしながら当事者が当事者の生を当事者らしく生きるための手立てを、協働して築いていく。そのエネルギー拠点たらしめることこそ、自分たちの仕事でなくてはならない。



「生きる」というからには、躓くことも呻くことも、もちろんあるだろう。だが、当事者が当事者の生を当事者らしく生きる姿を目の当たりにできたとき、かけがえのないエネルギーと至福を自分たちは、獲得できるのだと信じている。

親が立ち上げた薄光会の原点はそこにある。親も自分の生を自分らしく生きるべき当事者なのだから。



《自分は腹を括る。この重責のバトンをつなぐべく、脳性麻痺の自分が持てる残り時間を精一杯、当事者として生きることを》

COCO de COCO



床屋のおばさん

ケアホームCOCOの入居者は、みんな行きつけの近所の床屋さんを持っています。

勝手の家の鵜野さんも、以前は少し離れた床屋さんを利用していましたが、「ここ最近、近所の床屋さんに通うようになりました。」

その床屋さんは、
とっても優しいおば
あちゃんの床屋さん
です。



いつものように散髪に出かけたある日のこと。
鵜野さんは、床屋のおばさんにこう切り出しました。

鵜野さん 「おかあちゃんーむけー！」
おばさん 「えっ？！迎えっ？」

支援員が今度家に帰るので迎えが来ることを説明する。

鵜野さん 「おっちゃん！迎えー！」
おばさん 「おじさんが迎えに来るの？」
鵜野さん 「おっちゃん！ケガ！ピクポク！」
おばさん 「おじさん救急車に乗ったら迎えに来られないじゃないの！」

鵜野さん 「うひゃー。」

みんなが笑顔に包まれました。
こうやっていろいろな人との関係がもっともっと広がっていったら素敵ですよ。

さあ、鵜野さん、今度は誰とお話する？

(庄司)



優秀な人事担当

あけぼの荘の友大さんは、時々昇格した職員のことを話してきます。

「鳥居さんりじちよう」
「いのさんかんりしゃ」
「しずくの園長いくさん」

職員ですら、まだとっさに言えないうちから、すらすらと名前と役職名が出てきます。

どこでそんな情報を仕入れたのでしょうか。とてもよく知っていて、いつも驚かされます。それで、自分よりも物事をしっかり把握している友大さんに、尊敬の念を抱いたりするのは、以前利用していた、



湊ひかり学園の職員のことも、もちろんよく知っています。

「湊の施設長こみやさん」

そして、

「湊のんさん……」

おや？その先の言葉が出てきません。

「湊のんさんは何だっけ？」

ちょっと、促してみました。

すると……

「ハゲ」

へっ？ 今何とっ？？

てっきり、役職名を言うのかと思っていたので、まさかの言葉に思わず笑ってしまいました。

(のんさんごめんさい)

友大さんでも忘れたりすることがあるのかなあ……

その後、のんさんは次長だね、と二人で

確認し合い、

「湊のんさんりじちよう」

と、無事友大さんからの

言葉を頂きました。

四月は昇格の時期。

その頃、誰が何の役職になっているのやら。

友大さん、また教えてくださいね。

G



学園新聞

湊ひかり学園ニュース

「初詣」

いつもは学園の近くにある鶴峯神社へ生活介護事業の利用者は初詣に行きますが、今年の初詣はいつもとは違う場所に行こう！というわけで、学園の近くにある東京湾観音と、木更津市にある八剱八幡神社に二組に分かれて行ってきました。東京湾観音はとにかくおっきい！遠くからでも大きいのに間近だと更にその大きさに圧倒されてしまいます。



東京湾観音を前に記念撮影の図。観音様は足元しか見えません。



冷たいけど我慢！



何をお祈りしたのかな？

この東京湾観音は海路と陸路の安全祈願のために作られたとか。お参りの前にまず御水を職員と一緒に取ります。そして御手水の後はついに御参ります。皆さんどんな事を祈願したんでしょうか？

お参りの後は周辺を散策しました。この日は富士山がとてもきれいに見えました。

八剱八幡神社はそれにしても人が多い！それもそのはず、八剱八幡神社は木更津の総鎮守で、人がよくお参りに来るのだから！

皆さん職員と一緒に参り開始です！三人ずつお参りしてありますが、後ろには人がいっぱい！なかなかゆっくりとお参りできませんでした。



三人ずつお参ります



後ろには人がいっぱい！



いつもと違う場所に自然と笑顔がこぼれます!!

それでも皆さん、木更津の方まであまり外出しないこともあってか、楽しく初詣を終えることができました！参拝後は境内で記念撮影です。皆さんきれいに撮れました！

……右に何かあるのかな？

こっぴつて帰らうと思ったら、境内側の駐車場に矢継ぎ早に車が！中々思ったように神社から出られず一苦労、初めて来るこっぴつなので少し大変でした。こっぴつ二組とも初詣は無事に終わりました。こっぴつの方も皆さん楽しくお参りの出来たようだったので良かったです。それでは皆さん今年一年事故なく幸せに過ごせますように！

「成人式」

初詣から数日後の成人の日には湊ひかり学園では成人式が行われました。今年の新成人は二人います。少しのんびり屋でマイペースなゆいさんと、いつも明るく元気なこうすけさんのおふたりです。

この日は成人式のためか、こうすけさんは少し緊張気味。その反面、ゆいさんはいつも通りのマイペースな様子で……。職員や利用者の皆さんにお祝いをいただき、成人式はとても楽しく過ごすごうすけさんです！



おふたりとも成人おめでとうございませう！

(大木)



「虹色アーティスト」

作業チームの「ライスシャワー」は、絵を描くことを中心としたアート活動に取り組んでいます。そのメンバーである二人の画伯を紹介します。

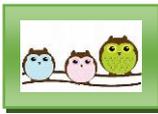


一人目は磯部旭さん。絵を描くことが大好きな磯部さん（卵を割ることも上手！）は、大きな手でクレヨンを持ち、何色もの色を重ねて描いていきます。明るい色を使うことが多いのですが、たまにダークな色を使うときも……。絵を描いている途中で「見てえ！」と、画用紙を持ち上げて見せてくれるのが彼のスタイルです。

二人目は小倉翔太さん。彼の凄いところは、絵を描いているときは「無」になることです。ノリノリに体を左右に動かしながら、ただ一点を見つめて描く。完全に自分の世界に入り込んでいるその姿は、まさにアーティストさながらです。

二人に共通して言えることは、絵を描いている時、とても「集中」することです。隣の作業チームが作ったお菓子の美味しそうなお匂いがしてきても何のその。二人の手は止まりません。

そして今回二人の画伯は、合作で「虹のアート」に挑戦。さらに七色のクレヨンを使って塗っていき、約二ヶ月間をかけて完成に至りました。



長い期間の取り組みだったにもかかわらず、毎回楽しそうに色を塗っている二人を見て「絵を描くことへの彼らのやる気、情熱を改めて感じた時間でした。」



(池澤)



「つなぐ・つなげる・つながる」

「かもがわ福祉でまちづくりフェスティバル」が昨年にひきつづき開催され、今年も日頃の活動や行事を紹介する「活動紹介コーナー」として参加しました。

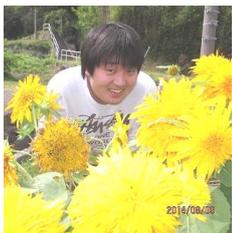
ステージにて、取り組んでいる活動内容を発表したほか、新川淑子さんがカラオケで「タッチ」を披露しました。



神作聡支さん

おめでとう！

祝 成人



今までたくさんの出会いがあり、皆に面倒を見てもらいながら成長してきたたと改めて思います。おかげさまで毎日穏やかな気持ちで過ごさせていることに感謝しています。これからも自分らしく素敵な日々になる様に見守っていきたくと思います。

母より

園だより

『分かち合えた喜びは色鮮やかなイル』

ネーションより明るかった

クリスマスに時期になると、街やアミューズメントパークの色鮮やかなイルミネーションについて立ち止まってしまいます。光生園の利用者さんも近くのシヤーカー施設にイルミネーションを覗に行ったり、クリスマスパーティーをそれぞれのユニットで開きました。クリスマススイフの日、出勤して健一さんの住むユニットに行くといつもは軽い挨拶しかしてくれない健一さんが私の顔を見た途端、笑顔で近寄って来ました。



「どうしたの?」と聞く間もなく私の手を引きキッチンへ向かいました。そこにはクリスマスケーキやチキンが用意されており、皆さんがお風呂に入っている最中も料理に釘付けでした。いよいよ食事が始まるので、一番美味しいのはどれだろうと迷っている様子で、「取りますか?」「早くー!」大好きなチキンをほおばるとお箸を持つ手が止まりません。

たちまちお皿の上はチキンの山が出来上がりました。「やったね!」と体を前後に動かして大喜び。もちろん食欲は全開です。あっという間にお皿は空っぽになりました。

「また来年も楽しみだね」と尋ねると何度も何度もうなずいていました。私が健一さんと喜びを分かち合えた特別な思い出の一夜でした。

鈴木 勝美

『涙のわけ』

冬はハロウィーンのかぼちゃ料理から始まり、クリスマスのケーキやチキン、年越しのそば、お正月のおせち、そして今や店頭にも並ばなくなった七草がゆまで、いろいろ食事の楽しみは盛りだくさん。光生園を利用していらっしゃる方々にも、ユニットのキッチンや厨房設備を使って食事を楽しんで頂けるようにしています。

そんな食事がテーブルに並んだ日には、皆さん目を輝かせ、食べ始めては笑顔がこぼれ、「おかわり」の声も聞かれます。でも、中には「最近ちょっと……」この声もちらほら。やはり、みなさん年はとるもので食事の好みも変わってきているようです。

身体の調子を崩してしまい、体に負担のかからない食事にせざるを得ない方もいらっしゃいます。

以前はモリモリ食べていた方に、そんな食事をテ-



ブルに乗せる時は、職員も気を使いますが、「構わないよ」と言ってくれたり、スプーンを口元に運んだ時に、口を大きく開けてくれたりすると、ホッとさせられる反面、何とかして、もっとおいしい物を食べて貰いたいと思います。

あるとき、長い間体調を崩されていた方が、ようやく飲み物が飲めるようになった頃に、お茶を進めながら、「今度は大好きなコーヒー用意するね」と言うので、ちょっと笑顔。

そして次の日、お茶を飲んでいたところにコーヒーを差し出すと、顔を真っ赤にして、クシヤクシヤにするほどの笑顔。それだけでも喜んでもらえ嬉しかったですが、その後には、これまでなかなか喉を通らなかった食事でも進み嬉しさ倍増。さらにコーヒーを飲み終わる頃には、職員に手を伸ばしそっと握りながら涙を流していました。その涙に、どれほどの気持ちが入められていたのか。おそらく職員の想いはるかに超えたものがあるのではと感じました。「食事をおいしく食べる」その意味を深く考えさせられる出来事でした。

菊地 淳一

御 札

金貳拾萬円也

昨年十二月末 千葉銀行様より寄付を頂きました。非常階段の手すりを整備させて頂きます。誠にありがとうございます。

太陽のしずく

事務室でのコトコロ

事務員の小高です。利用者さんと一緒にいる時間が少ないので、お仕事の皆さんのことを知らないのがちょっと寂しいです。でも、たまに事務室にお届け物で来てくれる時があります。私にとって楽しみな一時です。



いつもタオルを届けてくれる長井さん、タオルは必ず私に渡してくれます。ホームへ配達に行った後の鍵はホームの事務員さんに渡します。誰に渡すかちゃんと分かっているんですね。



缶のリサイクル代金を届けてくれる隆史さん、凄いで事務室に入ってきました、早く貯金箱に売上げを入れたいみたい、ちょちょっと待って〜今、貯金箱出すから。



いつもオシャシな浜崎さん
「今日も決まっていますね！」
と一言と必ず「ソッソ！」

にこちゃん喫茶の買物のお金を取りに来てくれる小松さん、大きな声で「お金！」しっかり者です。

扇風機が大好きな我妻さん、お届け物が終わっても扇風機を指差して暫く

シッと見つめています。



私には、皆さんと関わることがとっても楽しい一時ですが、皆さんにとってもそうであつたらいいな。これからも楽しみにしています！

(小高)

新年会

一月二十一日ホテルオークラにて太陽のしずく新年会が行われました。豪華な会場の雰囲気職員が呑まれていると、その横で利用者のみなさんは平然と会場に入り、自分の名前が書いてあるプレートを探しながら席につきました。



みなさんこういう場所には慣れてる様で、長井さんはおもむろにお皿の上ののっていたナフキンを手に取り、広げて汚れない様に服にかけました。ナフキンの使い方もバッチリわかってる様でした。



そして、隣でナフキンと悪戦苦闘している方に、そっと使い方を教えている長井さんに私は、「紳士だなあ。」と心の中でつぶやいていました。いつもの長井さんもやさしいけれど、今日の長井さんはとびっきり輝いていました。

(k)

『この国は、そろそろ気づいてくれないのだろうか?』

この国は、そろそろ気づいてくれないのだろうか?

認知症やその疑いがあり、徘徊などで行方不明になったとして、警察に届けられた人の数は約一万人。その中で死亡したり、行方不明のままだったりする人が合わせて五百五十人を超えるのだそうだ。

認知症で徘徊したお年寄りが電車にはねられて死亡、鉄道会社がその家族に損害賠償請求し、裁判所がそれを認めたといいニュースも報じられている。

介護保険制度が平成十二年から始まり、今回の改正で五回目となり、そのたびに認知症対策の推進とつたわれるが、有効な施策は打ち出せていない。「認知症施策推進総合戦略」認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、「新オレンジプラン」が取りまとめられたが、絵空事のように感じてしまう。

今回の介護報酬の改定では、社会福祉法人の内部留保や地域貢献が問題視され、その在り方が問われ、特養は狙い撃ちされた形で大幅な報酬ダウンとなる。その一方で介護職員の処遇改善だそうだ。四人床の居室代は四月で五〇円、八月からさらに四七〇円値上げされ、所得によって一割負担が導入される。もう、誰のための、何のための制度なのかわからなくなっている。

介護職員の処遇改善、確かにそうだが、介護は介護職員だけでできるわけではない。相談員やケアマネ、看護職

員、管理栄養士、施設一丸で取り組んでこそその介護であると思う。うちの施設に限ったことではないと思うが、人手が足らなければ、事務も用務員も、施設長も例外ではなく介護の現場に入る。この現状をわかって欲しいと思う。

介護認定についても、介護の必要性を基準時間で計り、一次判定が出る仕組みとなっているが、本当の介護の必要性との乖離は、はなはだしい。もう小手先の改定ではなく、制度の根幹を見直さなければならぬのではないだろうか。そうでなければ、認知症のお年寄りの行方不明や悲惨な事故はなくなるならぬ。

この国は、そこに気が付いてくれないでいる。気が付かないふりをしているのだろうか?

施設長 神谷

『開かない……』

県指導監査当日、少し早めに出動し、準備をしようとしてパソコンを開く。

電源を入れパスワードを入れる画面になり、いつものようにパスワードを入力すると、

「パスワードが違っています」との警告。

打ち間違えたか? と再び入力。

「パスワードが違っています」と再警告。

何が違う? と再々入力。

「パスワードが違っています」と再々警告。

焦り出す私。故障か? どうしよう?

だれか自分よりパソコンに詳しい人は?

この施設では、自分より詳しい人は……

……いない。



娘にラインで聞くのも癪に障る。どうする……。

悩んだ末の結論……

再起動してみるしかない……

でも、それで同じ結果だったら……

でも、仕方ない。とにかく再起動だ。

パスワードを入力する画面が現れた。

「神様……」

と、祈りながら、パスワードを入力する。

「神様……お願いします」

と、心の中で手を合わせる。

と、いつもの画面が現れ、パソコンは無事に起動してくれた。ほっと胸をなでおろす私。

いったいなんだっただろうか。原因は分からないが、結果オーライしよう。

と、自分が助かると数年前の事を思い出した。

当時豊岡光生園の施設長だった鳥居理事長の

パソコンのパスワードが入らないと呼び出され、

危機を脱したことがあったっけ。

あの時、「このパソコンを開けてくれたら、

いくらでも出すから……」と言われたような気がするが……。

今から請求してもよろしいですか、理事長

カミヤコンピュータサービス

【編集後記】今年は大雪もなく、春がやってきました。三芳光陽園のハルさん。めでたく九十九歳の春を迎えました。「春が来た、春が来た……」と、嬉しそうに歌っています。

(広報委員)

